

2. 各事業の概要と統計（昭和52年度）

(1) 微生物検査

1) 腸管系伝染病検査

14,537件行なったが、赤痢菌は全く検出されず、サルモネラ菌は10例検出された。検出された菌の血清学的な内訳は、B群6例、C₁群2例、D群1例、K群1例であった。また、海外渡航者133名についてコレラ菌の検査を行なったが、全て陰性であった。

2) 食品細菌検査

1,155件で、そのうち行政機関よりの依頼は732件あり、これらについては、検体の種類によりブドウ球菌、腸炎ビブリオ菌、サルモネラ菌等の食中毒起因菌についても検査を行なった。

3) 細菌性食中毒検査

食中毒の疑いとして行われた件数55件300検体のうち、食中毒として認められたものは8件87検体であった。原因菌としては、ブドウ球菌6件腸炎ビブリオ2件であった。

4) ウイルス検査

風疹の流行が終息すると共に、血清抗体価検査の依頼が減少し、今年度は、4,577件であった。また、インフルエンザのウイルス分離は、56件行ない、陽性は16件で、すべてFM-1 (H₁N₁)型であった。その他の288件は、バラインフルエンザの血清抗体価調査である。

表1 腸管系伝染病検査

昭和52年度

	赤痢菌		サルモネラ菌		コレラ菌	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数	検体数	陽性数
保健所クリニック	465	0	465	0		
防 疫	469	0	469	2	(133)	0
学校及び事業所	8,756	0	8,756	2		
そ の 他	4,823	0	4,823	2		
自ら行なったもの	24	0	24	4		
計	14,537	0	14,537	10	(133)	0

表2 食品細菌検査

昭和52年度

	行政機関		一般	計
	保健所	その他		
牛乳・加工乳・その他	65	18	28	111
鮮魚介類	48		10	58
冷凍食品	30	2	2	34
魚介類加工品	116	4	53	173
肉卵類・加工品	123	4	30	157
乳製品	17	1	10	28
乳類加工品	24		8	32
アイスクリーム・氷菓			87	87
穀類・その加工品	10		4	14
野菜・果物及び加工品			23	23
菓子類	5		23	28
清涼飲料水	46		28	74
氷雪	7		2	9
そうざい	40	3	52	95
その他	163	6	63	232
計	694	38	423	1,155

表3 細菌性食中毒検査

昭和52年度

発生番号	発生月日	摂食者数	患者数	推定原因食	便・吐物		食品		関連材料		推定原因菌
					検体数	陽性	検体数	陽性	検体数	陽性	
1	7.31	3	3	不明	2	1	1	1	—	—	ブドウ球菌
3	8.14	2	1	ホタテ刺身	1	1	—	—	—	—	腸炎 ビブリオ菌
4	9.4	7	6	刺身	6	3	4	0	—	—	"
6	11.28	9	9	不明	9	4	11	2	—	—	ブドウ球菌
7	11.29	6	4	シユーク リーム	1	1	3	3	—	—	"
8	12.14	不明	107	ワッフル	2	2	12	9	29	18	"
9	12.19	70	11	カレーの つけ	4	3	—	—	—	—	"
10	1.17	1	1	不明	1	1	1	0	—	—	"
					26	16	32	15	29	18	

(2) 臨床検査

1) 一般臨床検査

検体数は2,550件で前年度より約12%減少した。

これは血球検査などの簡単な検査が減少したことによる。

2) 健康評価に関する研究(厚生省委託事業・血中重金属)

検査内容は血液中の重金属分析が主なものであり、本年度から厚生省の特別委託研究に参加し、鉛以外に鉄、銅、亜鉛、カドミウムの分析をおこなった。

3) 梅毒検査

検体数は3,588件で前年度とほぼ同数である。このうち保健所依頼によるものが2,982件で83%をしめ、残り17%が市内の医療施設からのものであった。検査内容はガラス板法・TPHA法の2法でスクリーニングをおこない反応に異常が認められる場合は更に凝集法縮方法の3法を追加して確認検査をおこなっている。

健康者にみられる梅毒陽性者数並びに陽性率は表(2)の如く陽性数陽性率共に前年度に比較して減少した。

4) 先天性代謝異常検査

本年度から始められた新規事業で4月からフェニールケトン尿症、5月からガラクトース血症、10月からヒスチジン血症・ホモシスチン尿症・メイプルシロップ尿症の3種が更に追加された。

検査対象は札幌市内の医療機関で出生した新生児で年間検査数は15,396件におよんだ。

5) B型肝炎(HBs)抗原・抗体検査

これも本年度から開始された新規事業でHBs抗原及び抗体検出をラジオイムノアッセイでおこなった。

内訳はHBs抗原検査が1,045件でこのうち陽性数は62件で陽性率は5.9%、HBs抗体検査は846件で陽性数は351件、陽性率は41.4%であった。

表1 臨床検査の項目別検査状況

昭和52年度

区 分		件 数	区 分		件 数
血 液	血液一般検査	65	血清 (2)	HBs 抗 原	1,045
	重 金 属 測 定	267		HBs 抗 体	846
	フェニールケトン尿症	15,396		小 計	1,891
	ガラクトース血症	14,313	血清 (3)	ガ ラ ス 板 法	3,588
	ヒスチジン血症	10,423		T P H A	3,588
	ホモシスチン尿症	10,423		凝 集 法 , 縮 方 法	36
	メイプルシロップ尿症	10,423		小 計	7,212
	小 計	61,310			
血 清 (1)	ろ 紙 泳 動 等	118			
	中 性 脂 肪	2,477			
	RA CRP ASLO	37			
	そ の 他	35			
	小 計	2,667	合 計	73,080	

表2 健康者にみられた梅毒反応陽性並びに陽性率

昭和52年度

検査対象	区 分	検 体 数	陽 性	
			件 数	%
一 般 検 診 妊 婦		2,637	8	0.30 (0.85)
		281	1	0.35 (0.65)

()内数字は前年分

(3) 環境検査

1) 飲料水検査

水質検査月別及び依頼別検体数は表1, 水質基準適否は表2のとおりであり, 一般飲料水は2,475検体で適合率は59.3% (水道水定期臨時検査は65.5%, 自家用井戸水55.3%) 水道法による全項目検査は143検体で適合率は53.9% (原水43.6%, 浄水61.7%) といづれも昨年と略同じであった。

特殊検査項目・内容別件数は表3のとおりであり昨年より318件増加した。これは主に保健所で行なった貯水槽を持つビルの実態調査による鉄, 亜鉛200件の検査依頼があったことによるもので, 結果は鉄8件, 亜鉛5件が水質基準に適合しなかった。

また今年度中に一般市民より依頼があった自家用飲料水についての苦情の集計は表4のとおりで臭味, 濁りなどは例年通り目立って多かった。

2) 家庭用品検査

本年度中に依頼のあった有害物質を含有する家庭用品検査の状況は表5のとおりである。ホルムアルデヒドは検査件数516件と昨年と略同じであるが, 基準に適合しないものは乳児用, 大人用と各1件であり昨年の18件より大幅に減少した。

3) 水棲生物, 衛生動物検査

一般市民より依頼のあった飲料水中の水棲生物及び衛生動物の検査(同定)状況は表6のとおりであり, 特にアリ類が目立ち, なかにシロアリ類との区別を依頼されたものもあった。